

【東京都美術館】



(修復前)



(修復後)

最終日に訪れた東京都美術館では、17世紀のオランダを代表する画家ヨハネス・フェルメールの『窓辺で手紙を読む女』など多くの有名作が公開された「フェルメールと17世紀オランダ絵画展」を鑑賞しました。特に、この『窓辺で手紙を読む女』は、フェルメールのスタイルの特徴である、窓から差し込む光の表現、室内で手紙を読む女性像などの描写が確立した時期の傑作です。この作品をイメージするとき、多くの人が壁に何も掛かっていない作品を想像すると思いますが、実は、1979年のX線調査により壁にあったキューピッドの画中画が塗りつぶされていることが判明しました。長年の間、そのキューピッドの画中画はフェルメール本人によって塗りつぶされたのだと思われていましたが、2019年に、フェルメールの死後、何者かによって消されていたということが発表されました。同年には、上塗りの除去作業が完了し、今では本来の作品を見ることが出来ます。

○感想

・美術館では、実物を見ることの素晴らしさを学びました。もともとフェルメールの絵は好んで見ていましたが、本物の絵を目の前にして言葉が出ないほど感動し、絶対にこれからも美術館に行き、いろいろな絵を見ようと思いました。貴重な体験でした。(荒川)・オランダ絵画の黄金期を代表するにふさわしい華やかな作品がある一方で、庶民にスポットライトが当てられた、素朴で寂しげな作品もありました。絵を見ていると、描かれた当時のその場に引き込まれていくような不思議な感覚を味わいました。作品から垣間見えたオランダの歴史や文化をさらに深堀りしていきたいです。(川添)

・美術館を訪れる前から最も見るのを楽しみにしていた『窓辺で手紙を読む女』の復元前後の本物の2作品を実際に目にして、ネット上や教科書からでは得られなかった発見や感動を味わうことができました。フェルメールはこのキューピッドにどんな思いを込めたのか、そしてなぜ消されてしまったのか、これからオランダの文化や芸術について学びを深め、自分なりの解釈で作品鑑賞を楽しんでいきたいです。(北尾)・私は今回の展覧会を訪れてみて絵画鑑賞の素晴らしさを実感しました。フェルメールの『窓辺で手紙を読む女』では、修復後にキューピッドの絵が現れたことで作品の表す内容が異なってくるということが非常に興味深く面白かったです。これからも作品に込められた思いを考えながら絵画鑑賞を楽しみたいと思いました。(中川)

★オランダについての事前研修や当日の引率をしてくださった、長崎大学グローバル連携機構長特別補佐の山下龍先生ありがとうございました！

東京研修に行ってきました！

長崎東高創立 70 周年記念事業「羽ばたけ！『ひがし』プロジェクト」に参加した 75 回生 7 人（福田、川添、筑紫、中川、本多、北尾、荒川）が、3/24～26 の 3 日間、東京都にあるオランダ大使館と東京都美術館を訪問しました。2 年前までは長崎の姉妹都市であるオランダのライデンを訪問していましたが、コロナ禍のため国内研修となりました。オランダの方々との交流やオランダの芸術に触れる貴重な研修機会をくださった長崎東同窓会奨学会に心より感謝いたします。

【オランダ大使館】

駐日オランダ王国大使館（在東京オランダ大使館）は東京都港区に位置します。1859 年に初の駐日オランダ公使館がおかれしました。1883 年に現在の場所に移転しましたが、関東大震災による火災で焼失し、1928 年に再建されました。第二次世界大戦後、駐日オランダ大使館として再開され、ジョナー・O・ロイヒリンさんが初代駐日大使を務められました。2019 年より、ピーター・ファン・デル・フリートさんが特命全権大使を務められています。日本とオランダは江戸時代から交流があり、鎖国政策の中、ヨーロッパ諸国で唯一外交関係を保ちました。オランダ大使館が弓なりの形をしているのは長崎の出島をモデルとしており、この当時の友好関係を象徴するものとなっています。現在、在東京オランダ大使館に加えて、在大阪オランダ総領事館、在名古屋オランダ王国名誉領事館、在長崎オランダ王国名誉領事館があります。

大使公邸は二階建てで、二階は大使一家の居住空間として使われています。今回、私たちは公式な行事や食事会などが行われる一階を見学させていただきました。中は部屋同士が繋がっているような開放的な構造で、大きな窓から光が差し込み、明るい雰囲気でした。またリビング・ダイニングが広く、普段は客を招いて演奏会などが催されているそうです。庭も美しく整えられており、春にはチューリップが咲き、その時期には大使公邸の一般公開のイベントも開催されるそうです。さらに各部屋には日本文化とオランダ文化の融合が感じられるアートやデザイン作品が飾られていました。

私たちは最初に大使公邸を見学し、その後に外交官や大使公邸を案内してくださった方から、大使館での仕事やオランダについてお話を伺いました。最初私たちは大使館にお堅い印象をもっていたのですが、大使や職員の方はフレンドリーでお話しやすく、そのイメージはいい意味で変わりました。大使の仕事はもちろん大変なことも多いと思いますが、国と国を繋ぐかっこいい仕事だとわかって良かったです。（筑紫）

